

再生可能エネルギーに関する取組

地元密着企業で地域を元気に(鳥取県米子市)

これまで、火力発電や原子力発電のように大規模で集中的に発電が行われていました。しかし、災害が起きてその設備が止まった場合、広い地域で大きな影響が出てしまいます。2016年に電力に関する制度が変わってからは、小規模で各地に分散した発電も行いやすくなりました。再生可能エネルギーは地域で作り、地域で使う「地産地消」に適したエネルギーのため、各地で再生可能エネルギーを使った小規模発電の取組が進められています。

鳥取県米子市では、生産したエネルギーをその地域で消費することで、地域のお金の流れを活性化させること、地域に働く場所を生み出すことなどを目的に、地元企業5社と共同で「ローカルエナジー株式会社」を2015年に設立しました。同社では、米子市やその周辺での廃棄物発電、太陽光発電、地熱発電などといった再生可能エネルギーで作られた電力を積極的に活用しています。

また、同社は、地域内に必要な電力量の予測を行って自社だけでは余ったり不足したりする電力を売買して調整し、電力がしっかり供給されているかを確認したりするといったことを自ら実施しています。これにより、地域の天気やイベント、学校の行事など地域の特性に合わせた最適な電力提供を可能とするとともに、地域に新たな仕事を生み出しています。

地域の再生可能エネルギー等を活用し、地域に密着して電気やガス等を供給する公的な企業をドイツでは「シュタットベルケ」と呼び、地域の活性化につながっています。米子市ではこのシュタットベルケに習い、地元密着企業で地域を元気にする取組が積極的に進められています。

● 廃棄物発電施設



資料：鳥取県米子市

● 太陽光発電施設



資料：シャープ株式会社